

**目次** 国交大臣が取消裁決、沖縄県が不承認の処分を:北上田毅

沖縄地上戦からウクライナを思う:毛利孝雄 / 辺野古不承認取り消し-沖縄の民意踏みにじるな:琉球新報

**特集 奄美諸島の環境破壊:嘉徳海岸にコンクリート護岸堤; 磨島昭広/若槻武行 /嘉徳砂丘に護岸提は必要か;城村典文/ 静岡で日米共同訓練;富田英司/ 近々イベント 5月8、15、26日/**

1914 7 28 と 1939 9 1 と 2022 2 24 は単なる偶然か? ; いまいち良/ **戦没者遺骨を含む土砂を辺野古新基地の埋立に使うな!** 平和をつくり出す宗教者ネット; 公害等調整委員会へFAXの緊急要請

~~~~~

チヨイ(北上田毅)さんの沖縄日記 辺野古や高江の問題等に関する日々の備忘録

## 国土交通大臣が取消す裁決！ 防衛局の辺野古新基地建設変更申請を、沖縄県が不承認とした処分を!!

今後の法廷闘争が必至。防衛局は、時間はたっぷりあるのだから、今からでも B27 地点でのボーリング試験を実施せよ！——

4月8日、国土交通大臣は、軟弱地盤改良に伴う防衛局の辺野古・設計変更申請を不承認とした沖縄県の処分を取消す裁決を出した。国が、私人の権利救済を目的とした行政不服審査制度を使うことは、行政法学者からの批判が相次いでいる。同じ内閣内で、右手で提出した申請書を左手で受け取って認めるようなものだから、茶番としか言いようがない。

しかし、不承認を取消しても設計変更申請が承認されたことにはならず、これだけでは防衛局は変更申請部分の工事に着手することはできない。そのため国土交通大臣は前記の裁決と同時に、地方自治法第245条の4-1項に基づき、沖縄県に対して、本件申請について4月20日まで承認するようとの勧告を行った。

これはまだ「勧告」だから県は無視すればよい。国土交通大臣は次に前条の4-2項に基づく「是正の指示」を出してくるだろうが、それも県が無視すれば、国は「違法確認訴訟」や「代執行訴訟」を行う他ない。防衛局が設計変更申請部分の工事に入ることができるのは、国がこれらの法廷闘争の全てに勝利してからなので、遙か先のことだ。

辺野古新基地が完成するのは、国が変更部分の工事に着手してから12年先である。国は口を開けば「辺野古新基地建設が普天間基地の危険性を解決するための唯一の手段」というが、辺野古にこだわるのが、逆に普天間基地の危険性を長く放置するのは明らかだ。裁決書にも目を通したが、防衛局の言い分をそのままコピーしたものにとらず、目新しい点はない。

B27地点での地盤の強度を調べるボーリング試験を実施していないことについても、「3地点での力学的試験の結果から推認でき、合理性がある」としている。しかし、全76地点のうち8割の地点でボーリング試験を実施したのに、海面下90mまで軟弱地盤が続いている最も重要なB27地点で何故、ボーリング試験を実施しないのか、合理性のある説明はない。

隣のB28地点では、海面下100mまでボーリング試験を実施したが、40日で完了した。B27地点のボーリング試験は、準備期間を含めても2ヶ月もあればできる。県の不承認の最大の理由は、B27地点でボーリング試験を実施していないという点だから、実際にボーリング試験を行って問題がないというデータを示せば、県の今回の不承認理由はなくなってしまう。これからの法廷闘争で決着が着くまで時間はたっぷりある。何故、防衛局はB27地点でのボーリング試験実施をかたくなに拒否し続けるのであろうか？

## 沖縄地上戦からウクライナを思う

沖縄大学地域研究所特別研究 毛利 孝雄 (当会世話人)

プーチン大統領によるウクライナ侵攻から、すでに2ヶ月近くが経過しようとしている。停戦の機運は後退し、焦点はウクライナへの武器や軍事物資の支援に移ってしまった感がある。いったん始まった戦争の停戦が、いかに困難であるか。「満州事変」の呼び名で日本が始めたアジア太平洋戦争は15年、ベトナム戦争が10年、アフガン戦争は20年続いた。人を殺すことは、犯罪ではなく戦果となる。おびただしい数の人間の常ならざる死、数値化され個人として記憶されることも許されない死。小田実さんは「難死」と呼び、澤地久枝さんは「異形の死」と呼んだ。

アジア太平洋戦争の末期、沖縄の地上戦では20万を超える命が犠牲になった。ウクライナ東部地域やキーウ郊外の、破壊され尽くした市街地の映像に接しながら思うのは、沖縄戦を体験した人たちはどのような気持ちで77年後の現実を見つめているだろうかということだ。

脳裏に浮かぶのは、在沖中(2011.3～2013.6)に何度も話を伺った宮里洋子さんと小嶺正雄さんのこと。宮里さんは座間味島での「集団自決」を、小嶺さんは渡嘉敷島での「集団自決」を生き延びた。お二人とも、今は故人となっている。

「本土」では、戦争体験談という特定の話者の講話を想像するが、4人に一人が亡くなった沖縄では、その年代の人すべてがそれぞれの沖縄戦体験を持っている。

宮里さんと始めて出会ったのは、2011年4月。沖縄生活を始めたばかりのこと。たまたま参加した集まりで、宮里さんから「米軍への思いやり予算を凍結し、東日本大震災被災地救援を求める署名」を求められた。東北の知人たちの窮状をまえに、ひとり沖縄に生活の場を移すことへの後ろめたさを抱えていた私は、基地被害に苦しむ沖縄からこのような形の支援が広がっていることに、心底勇気づけられた。彼女の戦争体験を聞くようになるのは、それから一年以上経った後のことになる。

「死ぬのは嫌！」と避難壕から逃げ出し、無傷で生き延びた。母・姉・妹にはカミソリ傷が残る。切りつけたのは国民学校の教師をしていた母。徹底した皇民化教育の先導役として、わが子に手をかけた。

宮里さんとの話で一番印象に残っているのは、親しい友人とも泊まりがけの旅行には一度も行ったことがないということ。たびたび戦場の悪夢にうなされ、叫んでは飛び起きることがあるためだ。沖縄戦PTSDを研究する蟻塚亮二医師との出会いがあって、やっと、自らの体験を語るができるようになったと話されていた。沖縄戦からは半世紀余の歳月を経てのことである。

小嶺さんとの出会いも偶然だった。沖縄大学の学友(年齢は40歳も離れていたけれど)たちと特に目的のない島旅の途中で、トマト畑で出会った老人から「どちらから」と声をかけられたのが始まりだった。「この島は、昔、大変なことがあったよー」という言葉をそのままにできず、その後何度も渡嘉敷島に通うことになった。

家族と布で結び合い、いよいよ自決を決意したが、雨のため所持していた2つの手榴弾は不発で、阿鼻叫喚の地獄を生き延びることになる。

小嶺さんの聞き取りで印象に残るのは、彼が一度も「集団自決」という言葉を使わなか

ったことだ。「大変なことが起こったんです」と言葉をしぼり出すように語った。研究者のあいだでは、今も「集団自決」「強制集団死」いずれの用語を使うかをめぐって議論がある。いずれの言葉でも表現しつくせない沖縄戦の実相を、小嶺さんの言葉から想像するほかない。いまでも、証言の前後は不眠と寝汗に悩まされ体力を使うと話されていた。

宮里洋子さんは、小嶺正雄さんは、爆撃から逃げ惑うウクライナ市民らの映像を、どのような思いで見ているだろうか。そして、ロシア軍事侵攻はウクライナ市民の中に、そしてロシア兵の中にも、宮里さんや小嶺さんのように心の傷を抱えることになるだろう人びとを、どれだけつくり出してしまったことか、そんなことを考えさせられる。

いま、私たちが世界の為政者に求めるべきは、一刻も早い停戦の実現であり、避難民らの援助ではないか。NATO 加盟国とアメリカにも、東方拡大でロシアを挑発し続けてきた当事者としての責任がある。彼らがなすべきは、武器や軍事物資の提供などではなく、停戦実現の努力であるはずだ。日本政府は、ウクライナ軍事侵攻を奇貨として、台湾有事を想定し、沖縄など南西諸島への自衛隊配備、敵基地攻撃能力、核兵器の日米共同運用など、一層の軍事化と 9 条「改憲」を目論んでいる。

「アジアで 2,000 万人、日本国内 310 万人の犠牲の中から獲得した平和憲法を、簡単に手放していいのですか」。宮里洋子さん、小嶺正雄さんの叫びが聞こえる。

~~~~~

## 辺野古不承認取り消し 沖縄の民意踏みにじるな

琉球新報 2022 年 4 月 9 日「社説」

辺野古の新基地建設に伴う埋め立て工事の設計変更を不承認とした県の処分を、国土交通相が取り消す裁決を行った。県は対抗措置を検討しており、再び国と法廷闘争になりそうだ。

昨年 11 月に玉城デニー知事が不承認を表明した時点で想定されていた展開だが、国と県が法廷闘争を繰り返さなければならないのは、政府が沖縄の民意を踏みにじり続けるからだ。取り消し裁決に断固抗議する。

翁長雄志前知事の埋め立て承認取り消し、翁長氏死去後の承認撤回に続き、国交相が取り消すのは 3 回目だ。過去 2 回とも法廷闘争は複雑な経緯をたどり、現在、撤回を巡る抗告訴訟が最高裁で係争中だ。最高裁で県の敗訴が 2 件確定している。

玉城知事が昨年 11 月に不承認を表明したのは、新基地建設に反対する県民の意思を受け、自らの公約に沿ったものだ。しかし、政府は工事を続行しており、訴訟となっても工事を強行していく腹づもりだろう。県は引き続き法廷闘争に挑まざるを得ない。

沖縄の民意には正当な理由がある。まず、日本の国土面積の 0.6% に米軍専用施設の約 70% が集中している過重負担がある。事件事故、爆音、汚染など、深刻な人権侵害が続いている。この広大な基地の大半は、住民の同意のない一方的な占拠・強奪によって形成されたものだ。

軍用地返還を求める地主に対する強制使用は、1972 年に沖縄の施政権が日本に返還されても、駐留軍用地特別措置法などにより続いた。これは憲法 95 条「一の地方公共団体のみ適用される特別法は、法律の定めるところにより、その地方公共団体の住民の投票においてその過半数の同意を得なければ、国会は、これを制定することができない」に反する。2019 年の県民投票で約 7 割が新基地に反対した結果にも反する。広大な基地は経済にも大

きな制約を強いている。新基地は、世界的に貴重で観光資源としても大きな可能性を持つ海域を破壊し消滅させるとともに、キャンプ・シュワブを固定して、周辺の経済発展を永遠に阻害する。これは、公有水面埋立法の1号要件「国土利用上適正かつ合理的なること」に明らかに反する。

同要件の本質は「国土利用上の効用」である。13年当時の仲井真弘多知事の埋め立て承認を、埋め立てによる損失と効用の比較で評価すべきである。訴訟になるのなら、沖縄県は改めてこの点を主張・立証すべきだ。

ロシアのウクライナ侵攻や中国脅威論を背景に、南西諸島の軍備強化が必要だという主張が増えていることも、政府の強硬姿勢を支えている。しかし、沖縄戦の教訓を受け継ぐ私たちは、戦争が絶対悪だと知っている。基地の拡大は、沖縄を戦場にする危険性をさらに高める。知事に、毅然（きぜん）として民意を体現し続けることを望みたい。

~~~~~

## 特集 奄美大島の環境破壊

### その1 世界遺産の嘉徳海岸にコンクリート壁を計画！

鹿児島県護憲平和フォーラム 事務局長 磨島 昭広

奄美大島の瀬戸内町にある嘉徳(かとく)海岸は、植物が生い茂る山々やマングローブの原生林で知られる奄美・沖縄地域の一部で、多数の絶滅危惧種が生息する同地域は2021年7月に、ユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界自然遺産に登録されたばかり。

登録から2カ月後の9月に、穏やかな嘉徳海岸に複数のトラックや掘削機が現れ、海岸の砂浜を取り除いてコンクリートの壁を建てる護岸工事の準備に入った。完成すれば、2階建てと同じ高さの世界自然遺産に相反する人工の浸食防止のためのコンクリート壁が出来る。住民はもともと自然のままの海辺を大事にし、何十年にもわたって「護岸工事にカネを出す」という政府の申し出を断ってきた。しかし、2014年の2度の台風の高波や強風で海岸の砂が流出して集落を守り切れないと判断し、仕方なく工事を受入れた。

ただ、砂浜の浸食の原因は、台風の影響だけではない。これまで行われた、嘉徳沖での業者による大規模な海砂の採取が引き起こした人災で、現在の砂浜は、自然の力で復元しつつある。そこに、県がコンクリートの壁を作ることは、自然遺産に登録された「奄美の自然」を破壊する行為であり、ユネスコが登録した世界遺産の趣旨にも反する。

鹿児島県平和フォーラムは奄美ブロックと連携し、とりくみを進めていきたい。

## 特集 奄美大島の軍事基地化

### その2 奄美大島での基地建設と自然破壊 (一部再掲)

食と農/環境フリーライター 若槻 武行 (当会世話人)

#### ◆ 琉球弧の自衛隊配備の強化

奄美群島と鹿児島県とは、風土も文化も全く違う。江戸時代は薩摩藩から収奪を受けた。奄美群島のすぐ南は沖縄諸島で宮古列島・八重山列島へと続く。北はトカラ列島、大隅諸

島、九州となる。これらを纏めて「琉球弧」という言い方がある。「琉球弧」は中国を牽制する位置にあるが、特に安倍政権時代の2019年から、この島々に最新型のミサイルを配備した自衛隊基地建設が本格的に進んでいる。

奄美群島では、右上の地図\*1の、奄美駐屯地に陸自の地对空ミサイル部隊他が2019年3月、奄美大島奄美市に開設された。同年、\*2の、瀬戸内分屯地には陸自の地对艦ミサイル部隊他も、瀬戸内町節子に開設された。奄美大島ではほかに、\*3;空自の高性能レーダー部隊、\*4;海自の基地分遣隊などが配備されている。

喜界島や沖永良部島等にも高性能レーダーが配備された通信所がある。また、薩南諸島で種子島の隣の馬毛島にも陸海空自と米軍の飛行場があり、情報本部として事前集積拠点になっている。



上の「中国から見た琉球弧」の地図を見ると、薩南・奄美の島々は沖縄島や、最近開設の宮古・石垣・与那国の島々の基地と共に、中国を射程にして展開している。琉球弧の自衛隊は対中国最前線部隊で、中国にとっては「目の上のたん瘤」だ。中国と何かあったら、どうするつもりか？

日本国民は「台湾有事」でも背後に米軍が居ると楽観している。しかし、イラクやアフガンで失敗した米軍は表に出ない。ウクライナ同様、まず日本にやらせ、自らは背後で交渉に持ち込む腹だ。琉球弧の日本は今、「一触即発」の状況と云えよう。

◆ 許せない自然破壊

奄美大島で自衛隊ミサイル基地建設が進むと、道路が整備される。山が削られ、膨大な残土が出て、各地が仮置き場となる。その土砂の一部は雨が降ると土砂崩れが起こり、珊瑚礁の海に流出する。国も県も土砂の処理に困っていた。そこで、那覇空港の第二滑走路の埋め立ての実績をあげ、辺野古新基地の埋め立てを画策した。

基地建設の工事を請け負う大成建設が指定業者や孫請けの業者を使って、各地（筆者が見てきただけでも①～⑩も！）に仮置きしている「産廃」の「岩ずり」（砂利と土の混ざった残土）を集め、まとめて辺野古へ運ぶ計画だ。岩ずりは島の至る所に放置されていて、集める

のは容易にできる。

その岩ずり搬出に伴い、補助金付きの道路拡張整備事業、護岸堤延長、漁港整備が行なわれる。それらは多大な自然破壊だ。多くの島民、特に国立公園や世界自然遺産で観光や地場産業に関係する住民、農林漁業者らとは利害が反する敵対行為ではあるが、現地ではそれが明確にされていない。

#### ◆ 瀬戸内町 嘉徳集落海岸

今、護岸工事を進めようとしている嘉徳砂丘(右上地図④)は、日本に3か所残る手つかずの砂丘の一つ(他に鳥取砂丘、西表砂丘)だ。辺野古新基地との直接的な関係が明確ではないが、同集落での護岸工事が行なわれれば、他の地区の工事も進み、奄美の自然海岸はあちこちで破壊が進むだろう。



世界遺産・緩衝地区での護岸堤建設予定砂丘

この地区の嘉徳砂丘は、2014年の台風で砂丘に浜崖(はまがけ)ができ、鹿児島県は保全地区に指定し、当初は波返し型の護岸堤530mの建設を予定したが、環境団体の要請で環境配慮型180mを2019年までに完成させると変更。その後、ウミガメの上陸等の配慮から本体工事は中断していた。

自然破壊は陸上だけではない。海砂の採取もある。奄美をはじめ鹿児島県では、各地で盛んに行なわれている。海砂は辺野古新基地の埋立てで軟弱地盤対策の砂杭で不可欠(辺野古では90mと深過ぎて不可能という説が有力)。ただし、海砂の乱獲で広島県竹原市などでは住宅の陥没などの被害が出て、瀬戸内海では全面禁止となった。

そんなことから21年7月、嘉徳川流域全体が世界自然遺産・緩衝地に編入されたのを契機に、環境団体から護岸堤工事の見直しを求める声が上がった。しかし県は、集落民の生命と財産を守ることが優先との立場で、建設予定地の砂浜に木杭を打ち込み、砂丘の森を壊して工事用の道路づくりに着手。いよいよ工事を始めようとしている。

住民の命と自然保護、どちらも大事で、時間をかけた話し合いが必要だ。なお、小中学校のこの集落の旧嘉徳分校の廃校舎が美術館になっていて、住民や観光客に安らぎの場を与えている。

#### ◆ 直ぐ近くに自衛隊の地对艦ミサイル基地が

嘉徳集落の隣、節子集落の山の上の陸上自衛隊・瀬戸内分屯地(地図\*2)に地对艦ミサイル部隊が配備され、大型弾薬貯蔵庫でトンネル式5本(1本1000㎡)が建設中。現場に至る構内道路は幅が広く頑丈そうだ。これまで何度か、工事現場のプラントから嘉徳川へ白濁水が放出されているようで、住民の抗議に環境省はモニタリングを始めている。奄美群島では陸上自衛隊駐屯地の開設後、自衛隊の訓練などが住民生活に影響を与えている。沖縄・普天間基地から飛び立った米軍機・オスプレーの低空飛行訓練も、奄美自衛隊基地周辺を標的にして頻繁に行っている。



### その3 嘉徳砂丘に護岸提は必要か

奄美の自然と平和を守る郡民会議 事務局長 城村 典文

嘉徳砂丘に護岸堤は必要か

城村 典文

瀬戸内町嘉徳川流域は、天然記念物のリュウキユウアユやアマミシカワガエル、オットンガエルの生息する自然環境ということで、国際自然保護連合（IUCN）から特別地区を補完する緩衝地帯として推薦されました。保護価値のある地域との認定を受けた場所での、自衛隊瀬戸内分屯地工事によるさまざまな排水管理に、島民はあせんとしました。さて、太平洋に面した嘉徳川下流の海浜部分での流れは、季節ごとの降雨量や日々の気象状況による波浪や海の干満などの作用で、変幻自在に姿を変える「生きている川」と称されています。

この嘉徳海岸は、奄美の日本復帰当初から導入された奄美群島振興開発特別措置法（奄振法）の事業による護岸堤建設ラッシュを免れるだけの悠久からの大砂丘が存在しています。6年前の国会で、鹿児島県選出議員の質問に、国交省は「嘉徳海岸は手付かずの日本に残る三つの砂丘」と答えています。有史以前から防風防砂災機能を備えた砂丘が存在していたことを物語っていました。

その嘉徳砂丘が2014年の二つの台風で浜崖が起こったのです。その原因として考えられるのが嘉徳海岸沖で10年間におよび海砂採取船がよく見られたこと。また河口にたまった砂を重機で移動させていたなどで砂浜がやせ細っていたと考えられます。

嘉徳海岸の沖合にはサンゴ礁はなく、海浜の砂は嘉徳川から運ばれる川砂だけです。現在でも奄美群島の周りをかかせてカムフラージュする工法です。河川工学の専門家からは、護岸堤の建設予定地点は嘉徳川の流れに近く、返って護岸堤の足元の砂がすくわれ、これまで堆積した砂までも奪われる。将来的には護岸堤の前面に消波ブロックを並べるとの警告を受けています。

このような事態に、海浜生物の移動を遮断し、生物の生態系を壊すコンクリート護岸堤建設に反対する地元自然保護団体は、「護岸堤建設見直し求める一署名を奄美大島本島内の島民を中心に短期間で32336人分（手書き1605筆、ネット1631人）を集め知事に届けました。が、県はコンクリートブロック式護岸堤建設の考えは変わっていません。

2月22日、県は護岸堤建設現場までの取り付け道路建設に着工しました。道路は嘉徳川海浜に鉄板を敷き詰めて造られる予定です。鉄板の道路を集落近くで製造済みのコンクリートブロックを積載した大型ダンプが長期にわたり往復することになります。その上海浜に渡るには嘉徳川と支流との合流する汽水域にコンクリート製の暗きよを設置し、その上に鉄板を敷いて道路を伸ばすことになりました。

このように太古の昔から創成維持された砂丘を中心に、ヒトをはじめ野生生物が息づいている環境に人工物の護岸堤を設置することは、自然を冒瀆するものです。野生生物同様にヒトも津波や台風などの自然現象による環境変化には動物的感覚で対応するのが自然な姿だと思います。奄美大島の世界自然遺産登録地・緩衝地で行われている「自然と人工物」の攻防の行方を、地球の全生物からの判断を仰ぎたく思い、問題提起させていただきます。

（奄美市名瀬、奄美の自然と平和を守る郡民会議事務局長、69歳）



# 1914 7 28 と 1939 9 1 と 2022 2 24 は単なる偶然か？

編集部 いまいち 良

表題の3つの数字は妙な因縁がある。単なる偶然だとは思いますが、 $19+14+7+28$ 、 $19+39+9+1$ 、 $20+22+2+24$ 、いずれも合計数が68になる。68にはなんの意味もない単なる偶然だとは思いますが、いやーな感じがする。

世の中には不思議な因縁って結構あるものだ。

おわだまさ様と、かわしまき様のご縁は話題になったので覚えている方も多いだろう。

リンカーンとケネディーの因縁話はあまりにも有名だ。こういうのをシンクロニシティとでもいうのだろうか…。

1914年7月28日はサラエボ事件が起きた日。1939年9月1日はドイツ軍がポーランドに侵攻した日。そして2022年2月24日はいわずもがなだ。

NHKの番組によると、サラエボ事件が起きた時、欧州列強の首脳たちは大戦争に発展するとは考えていなかったという。オーストリア、ドイツ、ロシアの皇帝は英皇室を頂点とする血縁関係にあり、戦争に否定的だった。熱狂的に戦争を求めたのは財界（とくに軍需産業）と国民だったそうだ。

今、貧しくなった若者たちを中心に交戦論が増えているという。

1939年9月1日は、ドイツ軍がポーランドに侵攻した日だ。同年8月23日独ソ不可侵条約と密約を結んだ直後だ。ドイツに呼応し9月17日にはソ連がポーランドに侵攻(今回のロシアも中国と何らかの話をつけた後の侵攻だと推測されている)。10月6日には独ソによって分割された。



侵攻前、ポーランドは、第一次大戦で海への出口となる回廊を獲得した。一方、ドイツは分断され飛び地ができてしまった。そこで本国と結ぶ道路と鉄道を建設させると要求したが、ポーランドは拒否。英仏の保証を信じて強気で臨んだのだが裏目にでてしまった。英仏は同年の3月30日にポーランドの安全を保証していたので、9月3日にドイツに宣戦布告したものの実際には戦闘を傍観した。独仏国境に動きはなく、人々は英仏の動きを「まやかし戦争：phony war」と呼んだ。

今回もウクライナの大統領は欧米が戦ってくれると信じて強気で臨んだが、「誰も我々とともに戦ってはくれないのか！」と叫んだ。欧米は武器や物資は大量に届けてくれたが、戦争を止めようとはしていないようにみえる。長引いた方が都合がいい局面もあるようだ。アメリカの軍需・エネルギー産業は空前の好景気だそうだ。

第一次大戦は、長引くことで国民にも兵士にも厭戦気分が蔓延したが、なかなか終結しなかった。ロシアそしてドイツに革命が起きてやっと1918年11月11日午前11時（パリ時間）に停戦だ。

11時に停戦が始まる最後の瞬間まで激しい戦闘が続けられた。軍は、予備弾薬を運んで帰ることを嫌い目標を砲撃し続けたという話もある。2738人の兵士が、この停戦日に戦死したそうだ。

最後に戦死したフランス兵は、「停戦後にスープが出るぞ」と戦友に伝えに行く途中、午前10時45分に撃たれた。最後のイギリス兵は朝9時30分、斥候に出て戦死。最後のカナダ兵は停戦のわずか2分前、退却するドイツ軍との戦いで戦死。そして、第一次世界大

戦で最後に死んだと考えられているアメリカ兵は停戦 60 秒前に、停戦間近と知らされていたにもかかわらず殺された。最後のドイツ兵は、停戦を知らされていなかった兵に殺された。(ドイツと連合国の休戦協定：第一次世界大戦 ウィキペディアによる)。また、エルツベルガーは、ほとんど無条件降伏ともいえる過酷な休戦協定に調印した責任者であったため、極右テロにより 1921 年に暗殺された。

今回の戦争もやがては停戦にこぎつけると思うが、それまでにどれだけの血が流されるのだろうか…。それらの血は意義ある名誉の戦死なのだろうか？

~~~~~

## 静岡で 22 日間の日米共同訓練 憲法違反はやめよ

富田 英司 (当体会員、静岡・沖縄を語る会)

### 東富士演習場がある静岡でも過去にない大規模訓練

2019 年から南西諸島で、自衛隊のミサイル基地建設が進んでいる。台湾有事で沖縄が再び戦場となりかねないことに、沖縄県民は不安を募らせている。日米中が戦火を交えれば沖縄戦以上の惨禍を免れない。

安倍政権以来、日米共同訓練は飛躍的に増大している。2012 年の「日米共同演習の延べ日数」は 854 日であったが、その後年々増加し、2019 年には 1245 日となっている。

自衛隊は昨年 9 月から 11 月にかけて「中国の脅威」を念頭に、約 10 万人を動員する過去最大規模の自衛隊演習を展開した。そのうち、約 1 万 2000 人の隊員と約 3900 台の車両を、九州の演習場に集結させ訓練を実施した。

日米の軍事的一体化が、2022 年 1 月の日米安全保障協議委員会 (2+2) で検討され、日米の統合的な共同訓練の計画と、日米施設の共同使用が確認されている。すでに 2021 年 12 月の日米合同訓練では、王城寺原(おうじょうじはら・宮城県)、岩手山(岩手県)、八戸(青森県)、矢臼別(北海道)などの訓練場を使って、ヘリによる射撃や、オスプレイによる輸送訓練がなされ、対艦攻撃ができる高機動ロケット砲 (ハイマース) も配備された。このような時期、私の住む静岡県でも過去にない大規模の「日米共同訓練」が行われた。

### 陸自と海兵隊の 900 人！ 中国との戦争を想定

陸上自衛隊東富士演習場(御殿場と裾野両市と小山町)と、米海兵隊沼津海浜訓練場(今沢基地、沼津市)では、3 月 4 日から 25 日までの日程で、陸上自衛隊と米海兵隊共同の本格的な揚陸作戦訓練が実施された。

実は、この沼津の海浜訓練場は、ベトナム戦争時には上陸訓練がくり返され、1990 年代末からは、海上自衛隊の上陸用舟艇による訓練がおこなわれるようになり、陸上自衛隊の水陸機動団の編成により、米軍との共同訓練がおこなわれるようになった。

今回の訓練には、陸自水陸機動団 (佐世保)、第 1 ヘリコプター団 (木更津駐屯地の V22 オスプレイ) の約 400 人と、米第 31 海兵遠征部隊(沖縄キャンプハンセン)、第 1 海兵航空団 (普天間基地の MV22 オスプレイ) の約 500 人が参加した。

訓練は、CH47 やオスプレイを飛行させ、ヘリキャスティングや上陸用舟艇を使って、人員や物資を共同して上陸させる、そして、東富士で陸自と海兵隊のオスプレイで人員を運び、戦闘を行うというものであり、「台湾有事」や「離島防衛」を理由に、中国との戦争を想定したものである。

2022 年 1 月下旬の東富士演習場での共同訓練では、米空軍の C130 から、陸自の空挺団 540 人が落下傘で降りるというもので、日米の軍事的一体化は強まるばかりである。

## 諸団体と共に抗議集会と要望書提出

今回の大規模な日米合同訓練の実施を聞き、私たち「静岡・沖縄を語る会」は県内の諸団体と協力して「抗議集会」と「自衛隊への要望書提出」を取り組んだ。

3月10日(木)は「日米共同訓練に反対する集会」を、現地の沼津今沢海岸で開催。集会には県内から各団体が参加し、「今回の日米共同訓練は日米の軍事的一体化をすすめるものである。それはアメリカの軍事戦略に日本を従属させ、沖縄の戦場化を想定するものであり、日本国憲法の基本理念に反するものである。私たちはこのような共同訓練に抗議し、その中止を求める。」との声を上げた。各団体の挨拶では、「静岡・沖縄を語る会」の山崎代表が現地での演習の様子を報告した。

また、3月22日(火)には「富士を撃つな！実行委員会」と「静岡・沖縄を語る会」のメンバーで、御殿場の自衛隊滝ヶ原駐屯地に出向き、東富士演習場で行われている日米共同訓練の中止を求めて、「中国との戦争を想定した日米共同訓練の実施に抗議し、その中止を求める要請書」を提出した。3月下旬であったが22日に寒波が再来して、御殿場付近は雪に覆われ、真っ白で寒い1日であった。

## 近々イベント

### \* 沖縄返還 50 年記念フォーラム <https://rentai.roukyou.gr.jp/2022/04/13/1410/>

- ・日時 5月8日(日) 14時～16時45分
- ・会場 HAREZA 池袋 多目的ホール(池袋) オンライン配信あり
- ・報告・表明 元山仁士郎／高里鈴代／永戸祐三／謝花悦子／内村ちひろ／佐々木愛／山城博治／海勢頭豊
- ・参加費 無料 ・主催 日本社会連帯機構

### \* 「復帰」50 年を問う 5.15 デモ

ー ウチナー イクサバヤナランドー 軍事基地は出ていけ！

- ・日時 5月15日(日) 14時集合 14時30分デモ出発
  - ・場所 日比谷公園・霞門(霞ヶ関)
  - ・主催 沖縄・一坪反戦地主会 関東ブロック
- ※ 当会も協賛



### \* 「復帰」50 年・辺野古新基地を許さず/憲法が生きる沖縄と日本を！ in 東京

- ・日時 5月26日(木) 18時～ ・会場 日比谷野外音楽堂&銀座デモ
- ・メインスピーチ 石川元平さん(屋良朝苗初代県知事秘書・沖縄県教組元委員長)

・主催 戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員／「止めよう！辺野古埋立て」  
国会包囲実行委員会

## ロシアの行為は許せないが…

ロシアのウクライナ侵攻は、第2次大戦以降の最も野蛮で許しがたい侵略行為として歴史に大きく刻まれることは間違いない。ただ、見逃してならないのは、この問題はもともと、ウクライナの極右武装勢力・ヘイト集団「アゾフ大隊」(ロシアはネオナチと決めつけるが、彼らは否定)が、オデッサなどでロシア系住民の大量虐殺が根底にある。建物に逃げ込んだロシア系住民を焼き殺した事件もあった。ゼレンスキー大統領はロシアの介入を防ぐためにも、ロシア系の保護を第一優先にすべきだった。

もう1点、見落としてならないのは、同じことをアメリカは北ベトナム、イラク、アフガニスタンなど各地で行なって(全て失敗)、てきたことだ。それでいてウイグル・チベット・台湾・香港では分離独立支持。イスラエルの非人道的犯罪は見て見ぬふり。この点を隠している。日本の自公政権もメディアもアメリカ寄り。国民も……。

## 戦没者遺骨を含む土砂を辺野古新基地の埋立に使うな！

この問題の是非を巡って、6月6日、第3回の公害等調整委員会が開催されます(当日は、過去2回の開催時同様、傍聴・アピール行動と院内集会を予定。詳細は後日案内します)。それについて、これまで一緒に行動してきた宗教者ネットより公害等調整委員会へFAX等の送信の緊急要請が来ていますので紹介します。  
(首都圏G世話人会)

\* \* \*

### 沖縄県糸満市での鉱物掘採に係る措置命令に対する 取消裁定申請事件の公正な審査を求める要請

平和をつくり出す宗教者ネット

東京都渋谷区神泉町8-7 日本山妙法寺内

090-6711-5573 (江上)

沖縄島南部地域での鉱山開発計画をめぐって、昨年5月に沖縄県は、熊野鉱山の開発業者に対し、遺骨の有無について関係機関と連携して確認などを求める、自然公園法に基づく措置命令を出しました。

業者側は、これを不服として、国の公害等調整委員会に取消請求を行い、第1回の審理が昨年12月16日・第2回3月24日に行われました。

来たる6月9日に第3回目の公害等調整委員会が開催されます。それに先立ち、5月には現地視察も予定されています。

既にFAX送信された方も再度、別紙を参考にされ、公害等調整委員会委員長あてに公正な審理を求める要請FAXを下記FAX番号に送信をお願いいたします。

もし、取消の裁定が出されますと、沖縄島南部地区の沖縄戦跡国定公園内の20数か所の鉱山開発に対して、沖縄県が自然公園法を根拠として遺骨への配慮を求めることができなくなってしまう。皆様のご協力をお願いいたします！！

☆要請先 公害等調整委員会

FAX 03-3581-9488

郵便の宛先 〒100-0013 千代田区霞が関 3-1-1

公害等調整委員会委員長様

2022年 月 日

沖縄県糸満市での沖縄県の措置命令に対する取消裁定申請事件の

公正審査を求める要請

<要請人>

住所：

氏名：（もしくは団体名）

日々、公害紛争の解決や、鉱業・採石業と一般公益との調整等にご尽力いただいていることに敬意を表します。

沖縄は今年、本土復帰50年になります。しかし、毎週のように沖縄では不発弾処理が行われ、周辺住民は避難を余儀なくされています。また、遺骨収集はいまだに進んでいません。政府の責任で行われなければならない2つの戦後処理がいまだに終わっていないのです。特に沖縄戦跡国定公園を中心とする本島南部は沖縄戦戦没者の約半数が亡くなった地域で、いまだ多くの遺骨が眠っています。

現在、貴委員会では、沖縄県糸満市での鉱山開発に係る県の措置命令の取消裁定申請事件の審査が行われていますが、下記の要請事項に配慮され、県の措置命令を取消することのないよう要請します。

#### 記

1. 第2回口頭審理で、委員長は、「戦跡公園としての風景の場合、単なる外観ではなく、そこで悲惨な戦争が行われたという記憶と結びつくことにより、外観が持つ意味が対象となることについては、当委員会としても理解することができた」という認識を示されたことを評価します。しかし、「風景を保護することと、遺骨収集への協力を求めることがどのように結びつくのか」という議論がある」と言われましたが、今も戦没者の遺骨が見つまっていることにより、悲惨な戦争の記憶がよみがえるのであり、遺骨収集への協力を求めることは風景を保護することと密接に結びついています。

2. 委員会として現地調査が行われることは、公正な裁定が行われるために有意義であると歓迎いたします。現地調査に際しては、鉱山予定地だけではなく、沖縄戦跡国定公園内の魂魄の塔や東京の塔等の戦争遺跡も是非、視察してください。特に、鉱山開発により破壊されるおそれがある2つのシーガーアブ（先日の県議会でも、ここで以前、70体もの遺骨が見つかったことが指摘されました）内部も視察してください。

3. 沖縄県南部の土砂を埋め立てなどに使わないように政府に要請する意見書が全国212の自治体（2022年3月末）で採択されています。これは、人道上の問題であると同時に、戦没者遺骨の尊厳を守ってほしい、遺骨を遺族の元に返して欲しいという全国の国民、沖縄県民の願いです。その思いを汲んでいただきたいと思います。

4. その他、要請事項

.....  
.....  
.....

## 安倍元首相がまたもクリミア問題で「おまえが言うな」の厚顔無恥！

『日刊ゲンダイ』'22/04/20 より

「どの国よりもロシアに甘い対応をしたのは誰？ 自分の失策を棚に上げ、戦争を平気で煽るとは……」と『日刊ゲンダイ』は厳しく、歯切れが良い。仏の『ルモンド』や米『ロサンゼルス・タイムズ』に掲載した安倍の持論をならべる。——<中国が台湾に侵攻した場合は米国が防衛する意思を明確にすべきだ。> <ロシアがクリミアを併合したとき、ロシアがウクライナの主権を侵害したにもかかわらず、国際社会は最終的にこれを黙認した。> <中国が台湾を侵略しようとする場合、米国は台湾を防衛することを明確にする必要がある。>

同紙はまた「プーチン大統領を増長させた張本人は、安倍晋三だと断定する。

<まったく、どの口が言うのか。… 14年のクリミア併合に際し、どの国よりもロシアに甘い対応をした…蜜月関係がある。14年2月のソチ五輪開会式は、人権問題を理由に欧米主要国の首脳が欠席する中、安倍元首相は出席してプーチン大統領を喜ばせた。その直後のクリミア併合に対する制裁もG7では最も緩く、形だけで済ませた。>

16年には地元の山口県・長門で「おもてなし」。19年には <ウラジーミル、君と僕は同じ未来を見ている>と……。

同氏はまた、五十嵐仁・法大名誉教授=政治学の次の指摘を紹介している。

「プーチン大統領を増長させ、ウクライナ侵攻の一因をつくった安倍元首相が何を偉そうに言っているのか、と国際社会も呆れているのではないのでしょうか。そうやってロシアと中国の脅威を煽り、日本の防衛費をGDP比2%に引き上げろと主張するのは、マッチポンプもいいところ。そんなに戦争がしたいのか。日本と世界を危険な道に引き込もうとしているようにしか見えません……」

メディアの多くが政府に迎合した昨今、首都圏では、この『日刊ゲンダイ』『東京新聞』『神奈川新聞』の3紙が委縮することなく、真実を伝え、公平な報道をしていると評価したい。(W)

### 編集部より

◆辺野古土砂・首都圏グループのメルマガです。コロナ禍での活動として取り組んでいます。投稿を歓迎します。内容は直接・間接に戦争・原発・辺野古新基地に反対している内容なら、自由。既発表原稿もOKです。詩、短歌、俳句、写真や絵も歓迎です。◆投稿が多すぎた場合、他の原稿のテーマのバランスから、掲載が延びることも。また、内容が運動の趣旨と合わない場合は、掲載を見合わせることもあります。◆コロナ禍の不自由な生活に負けない皆さんの積極参加、投稿を！

◆原稿は次へ、メールをお願いします。 辺野古土砂首都圏 <hnk000stkn@gmail.com>、  
また、従来どおり、世話人・編集委員の毛利、山咲、いまいち、若槻の個人メールでも受け付けています。



ウクライナの国花はひまわりです